

11/26

(水)

ミニシンポジウム
「大洋デパート火災資料の人権論的意義」を開催

この度「大洋デパート火災資料の人権論的意義」をテーマに、本学社会福祉学部森口千弘准教授と高峰武招聘教授が報告いたします。本資料が地域社会的な価値を法学・実務・歴史学などさまざまな観点から明らかにし、分断化社会において裁判資料の保管という「記憶の継承」の意義を再考することを目的としています。

1973年の大洋デパート火災では、買い物客ら104名が死亡。遺族はデパート側を相手取って民事裁判を起こし、その裁判の記録が2024年12月に本学へ寄贈されました。現在、図書館にて裁判記録をデータ化するなど、アーカイブ保存に向けた準備を進めています。資料には、当時の経営陣が刑事責任を問われた裁判記録、会社更生法が適用され事実上倒産した際の記録や調書、36本分の裁判証言記録カセットテープ、現場検証時に撮影されたデパート内部の写真も含まれています。

よろしければ取材いただきますよう、ご案内申し上げます。

取材ご希望の方は下記 URL（もしくはQRコード）よりお申し込みいただきますようお願いいたします

< 大洋デパート火災資料の人権論的意義 >

- 日 時：2025(令和7)年11月26日(水) 16:20～17:50（受付：16:00より）
- 場 所：熊本学園大学附属図書館 AV ホール（地下1階）
- 対 象：どなたでも（定員100名）（無料）

ミニシンポジウム プログラム

- ① 主催者挨拶
- ② 報 告 報告1：森口 千弘（熊本学園大学准教授）
テーマ「アーカイブズと人権論的意義」
報告2：高峰 武（熊本学園大学招聘教授）
テーマ「資料保存の意義(大洋デパート火災、免田事件など)」
- ③ 質疑応答

< 本リリースについてのお問合せ >

熊本学園大学 広報室

TEL：096-364-8722（直通）

Mail：koho-kgu@kumagaku.ac.jp

< ミニシンポジウムについてのお問い合わせ >

熊本学園大学附属図書館

TEL：096-371-8047（直通）

Mail：lib-soumu@kumagaku.ac.jp

取材申込フォーム

<https://www.kumagaku.ac.jp/application>

ミニシンポジウム

「大洋デパート火災資料の人権論的意義」

【日時】2025 年 11 月 26 日(水) 16:20～17:50

【会場】熊本学園大学図書館 AV ホール（地下 1 階）

プログラム

- ① 主催者あいさつ
- ② 報告 1：アーカイブズと人権論的意義
森口千弘（熊本学園大学准教授）
- ③ 報告 2：資料保存の意義（大洋デパート火災、免田事件など）
高峰武（熊本学園大学招聘教授）
- ④ 質疑応答

報告者紹介

高峰武（熊本学園大学招聘教授）

1952 年熊本県生まれ。早稲田大学第一文学部仏文科卒。1976 年、熊本日日新聞社入社。社会部長、編集局長、論説委員長、論説主幹。2020 年から熊本学園大学特命教授、2025 年から同招聘教授。

著書・共著：『ルポ 精神医療』（日本評論社）、『完全版 検証・免田事件』（現代人文社）、『検証 ハンセン病史』（河出書房新社）、『水俣病を知っていますか』（岩波ブックレット）、『熊本地震 2016 の記録』、『8 のテーマで読む水俣病』（弦書房）、「生き直す：免田栄という軌跡」（弦書房）、「検証・免田事件[資料集]」（現代人分社）

森口千弘（熊本学園大学社会福祉学部准教授）

1990 年東京都生まれ。早稲田大学法学部、同院法学研究科修士課程、同博士課程修了。博士（法学）。熊本学園大学講師を経て 2020 年より現職。

主著：『内心の自由』（日本評論社、2023）「社会の分断がもたらす人権の『武器化』」新井誠・友次晋介・横大道聡編『〈分断〉と憲法』（弘文堂、2022）、「信教の自由と反差別法」桧垣伸次・奈須祐治編『ヘイトスピーチ規制の最前線と法理の考察』（法律文化社、2021）、「『教師の教育権』という戦略」遠藤美奈ほか編『人権と社会的排除』（成文堂、2021）